

第二章 秘密のメッセージ

ホームズは、2枚の紙切れを注意深く見た。

「これは興味深い」と彼は言った。

「彼は、すみれ色の鉛筆で言葉を書いています。ウォーレン夫人、あなたはその男が、背が高くもなく低くもなく、髪の毛は黒っぽくて、あごひげがあると書いていました。彼は何歳ですか？」

「彼は若いのです。30歳を超えていません」とウォーレン夫人は言った。

「彼についてもっと何か教えてくださいませんか？」とホームズは尋ねた。

「彼は上手な英語を話しましたが、きっと外国人だと思います」とウォーレン夫人は言った。

「彼は身なりがきちんとしていましたか？」とホームズは尋ねた。

「はい、黒っぽい服で、とても立派な服装でした」とウォーレン夫人は答えた。

「彼はあなたに名前を教えましたか？」とホームズは尋ねた。

「いいえ」とウォーレン夫人は答えた。

「彼は手紙を受け取ったり、友人を迎え入れたりしますか？」とホームズは尋ねた。

「いいえ」とウォーレン夫人は答えた。

「あなたかその少女は、掃除をするために彼の部屋に入りますか？」とホームズは尋ねた。

「いいえ、彼がそれをするのです」とウォーレン夫人は言った。

「何だって！」とホームズは言った。

「それは驚きです。彼は何か手荷物を持っていましたか？」

「彼は、大きな茶色のかばんを一つ持っていただけです」とウォーレン夫人は言った。

「私たちは、彼についてもっと知らなくてはなりません」とホームズは言った。

「何かその部屋から出てきましたか？」

ウォーレン夫人は自分のかばんから封筒を取り出して、それを机の上に置いた。

封筒の中には、2本の燃え尽きたマッチと、1本のタバコの吸い殻があった。

「それらが今朝、彼のトレイの上にあったのです」と彼女は言った。

「小さなことがあなたにとっては重要だということは分かっています、ホームズさん」

ホームズはそれらを手に取って調べた。

「マッチは重要ではありません。私が思うに、彼はタバコに火をつけるためにそれらを使った。しかし、このタバコの吸い殻はとても奇妙だ。その男にはあごひげがあると、あなたはおっしゃった」

「はい、そうです」とウォーレン夫人は言った。

「理解できませんね」とホームズは言った。

「ひげのある男が、どうやってそんなふうにはタバコを吸うことができるのでしょうか？ ヒゲを燃やしてしまうでしょう！ そのタバコの吸い殻は短すぎます。おそらく、部屋には2人いるのです、ウォーレン夫人」

「いえ、いえ、彼はほとんど食べないのです。1人分としても十分ではありません」とウォーレン夫人は言った。

「現時点では、私たちはもういくつかの事実を待たねばならないと思います」とホームズは言った。

「結局、彼は家賃を払いましたし、面倒を起こしていません。もし彼が隠れたいたのであったとしても、あなたには関係ありません、ウォーレン夫人。正当な理由があるまでは、私たちは彼を邪魔することができないのです。今では、私はあなたの問題の全体像がよく分かります。もし何か新しいことが起こったら、私に教えてください」

「ありがとうございます、ホームズさん、ワトスン博士」とウォーレン夫人は、部屋を出ながら言った。

「さて、ワトスン、この件には間違いなく興味深いことがいくつかあるね」とホームズは言った。

「部屋にいる人物はおそらく、部屋を借りた者ではないと私は思うよ」

「なぜ？」と私は驚いて尋ねた。

「まあ、第一にタバコの吸い殻がある」とホームズは言った。

「それから下宿人は、彼が部屋を借りた後で一度だけ外出した。彼は戻って来た。あるいは誰かが戻って来た。家の者が皆眠っている時に。外出した人物は、夜遅くに戻って来た人物と同じだったのか？ 私たちには分からない。部屋を借りた男は、英語がよく話せた。しかし、もう一人の人物は「matches」ではなく「match」と書いた。この人物はおそらく英語をあまり知らず、そういうわけで、彼は短いメモを書くのだ。そうだ、ワトスン、部屋の人物は部屋を借りた人物と同じではないと、私は思う」

「何と奇妙な！」と私は言った。

「さて、もっと解き明かすために私たちができることが一つある」とホームズは言った。

「ウォーレン夫人の部屋にいる人物は一人で、手紙を受け取ったり、友人を迎え入れたりしない。彼はどうやって、外からニュースやメッセージを受け取ることができるのか？ 新聞の広告によってのみだ。他に方法はないし、私たちはその新聞を知っている。『デイリー・ガゼット』だ」

ホームズは大きな本を開いて、そこにそのロンドンの新聞の個人広告の欄を置いた。

「ここに過去2週間の、デイリー・ガゼットの個人広告がある。ふむ…。『ピカデリー・サーカスの青い帽子をかぶった夫人』、『ジミー、君のお母さんの心を傷つけるなよ！』これらは私の興味を引かない。ああ！ これを聞いてくれ。『私はあなたにメッセージを送る方法を見つけるでしょう。今のところは、この欄で。G』新聞の日付を見てくれ。ウォーレン夫人の下宿人が部屋を借りた2日後だ。この謎めいた人物は、英語を書けないとしても理解はしている」

「おそらく、私たちはもっと解明することができる」とホームズは言った。

「そうだ、見てくれ、3日後だ。『用心せよ！ 雲は過ぎ去るだろう。G』それから1週間は何もなく、それからまた別のメッセージだ。『もし私がメッセージを送ったら、秘密のコードを覚えておいてほしい。一つはA、二つはBなど。すぐ連絡する。G』それは昨日の新聞で、今日の新聞には何もない。これは下宿人の可能性がある。もう少し待ってみよう、ワトスン。間もなくもっと多くのことが分かるだろう」